

2015 年度 大学総合研究センター 事業報告

本大学の教育、研究および経営の質的向上に資する自律的で持続的な大学改革を推進するために、大学の理念に基づき、高等教育に関する研究および授業方法の企画・開発・普及促進とその実践を支援することを目的とし、2015 年度は以下の事業を行った。

1) 高等教育研究

【計画】

2014 年度に策定したアクションプランに基づき、研究を進める。2015 年度は「教学マネジメントに関する研究」「学生（受験生・在学生・卒業生）動向に関する調査・研究」を優先的に行う。また、研究成果の発信と情報共有を目的としたシンポジウムを開催する。

【実績】

- 2015/5/19 第 1 回高等教育研究委員会（2015 年度研究課題案提示）
 - 2015/6/23 第 2 回高等教育研究委員会（2015 年度研究計画書案検討）
 - 2015/9/29 第 3 回高等教育研究委員会（2015 年度後期研究計画書案検討）
 - 2015/11/17 第 4 回高等教育研究委員会（研究進捗報告と関連箇所提案方法検討）
 - 2016/1/19 第 5 回高等教育研究委員会（教育に関する懇談会案検討）
 - 2016/3/22 第 6 回高等教育研究委員会（最終報告 2 件と課題検討）
- 第 2 回教育に関する懇談会開催
テーマ「早稲田の教育の未来をデータから考える」

【総括】

高等教育委員会で策定した研究ロードマップに基づき、2015 年度の研究課題として「戦略的ベンチマーキング（2014 年度より継続）」「教育システム（全学カリキュラム関連：2015 年度新規）」「学生動向調査（2015 新規）」について調査分析ならびに検討を進めた。今後、研究成果の実務関連箇所へのフィードバックならびに具体的な施策への反映方法について効果的な進め方を早急に検討する必要がある。

また、昨年に引き続き、教務課との共催による「第 2 回教育に関する懇談会」を開催し、「授業アンケートの回答データ分析結果」を題材に教学 IR を進めていくことの必要性について議論した。

2) IR 機能の強化

【計画】

本学における IR 機能強化に向けて IR 推進体制を構築する。具体的には本学における IR の方向性を明確にしたうえで、その目的を実現するための体制を箇所と連携して構築する。また IR システム（統合 DWH、分析ツール等）の運用ガイドラインを策定したうえで、本格運用を開始する。「FACTブック」の仕様を検討し、継続的に集計・公開するための仕組みを整備する。

情報企画課が開発する IR (Institutional Research) システムについて、データの活用方法、運用ルールなどについて検討を進める。

【実績】

2015/11/1 大学 IR システム運用ガイドライン施行

2015/11/29 第1回 IR 担当者連絡会開催 (IR 推進体制、検討の進め方等を確認)

2016/1/19 第2回 IR 担当者連絡会開催 (各箇所の現状と課題について確認)

2016/2/1-3/7 分析ツール (SAS VA) を用いた「学生授業アンケート」分析ワークショップ開催 (5回)

2016/3/22 第2回 教育に関する懇談会開催 (IR 分析事例をもとにしたパネルディスカッション)

【総括】

「大学 IR システム運用ガイドライン」を策定し、統合データウェアハウス (DWH) の運用を開始した。また統合 DWH と連携してデータを可視化する分析ツール (SAS VA) を導入し、これらのツールを活用した分析のパイロットケースとして「学生授業アンケート」の回答データを用いた分析ワークショップを実施した (参加者は大総研ならびに情報企画部に関連する教職員ならびにシステム導入業者派遣のデータアナリスト)。分析ワークショップにおける成果は3月22日に開催した「教育に関する懇談会」で共有し、パネルディスカッションの題材とした。なおこれらの IR 分析事例を通じ、「統合 DWH」は日常業務運用データであり、「記述統計・分析」用へのデータ変換・整備や、分析ツール習熟者養成などのシステム運用面での課題も出てきた。また、大総研がハブとなり IR 担当者連絡会を中心とした、箇所横断的な IR 推進体制を整備した。2016 年度より各箇所の課題に即した IR 実践事例の蓄積を開始する予定。

3) 新たな教育手法の研究開発および普及促進

【計画】

「対話型、問題発見・解決型授業」について、定義を明確にしたうえで、具体的な実施例を示しつつ「導入の手引き」を作成する。

またワシントン大学（UW）とのジョイントプログラムとも連携し、ICT ツールの効果的な活用ならびにオンデマンドコンテンツを活用したブレンド型授業（反転授業）の普及をはかる。（Waseda Vision 150 核心戦略4 関連）

【実績】

- ・「対話型、問題発見・解決型授業」に関する「導入の手引き」は大総研助手を中心に執筆を進めている。
2015/8 第2回 WASEDA e-Teaching Award 大賞を受賞した商学部大鹿教授（大総研兼任センター員）の反転授業事例について、私情協「平成26年度私立大学情報環境白書」特色ある事例紹介に掲載。併せて、私情協の教育の質的転換を目指す「ICT利用による教育改善研究発表会」にて本事例の発表を行った。
- ・「Active Learning Tips 動画」を3本制作（クリッカー関連2本、グループディスカッション関連1本）し、教務担当教務主任会、ならびに各学術院教授会で上映した。
- ・わせポチ(Web版クリッカー)の有効活用を促進することを目的に「ピアインストラクション」をテーマにセミナーを開催した。
- ・教員によるFDコミュニティ「Faculty Café」を設置。2015年度は計3回実施し、アクティブラーニングをテーマに事例紹介、課題や工夫に関する情報共有を行った。

【総括】

「対話型、問題発見・解決型授業」に関する「導入の手引き」は全体の構成案を確認し、実際の執筆にも入っているが、公開には至っていない。2016年度中には初版を公開できるよう引き続き進めていく。

Tips 動画ならびにアクティブラーニングに関するセミナー、Faculty Café は今年度試行的に実施したが、今後コンテンツ数やセミナー回数を増やすとともに視聴者、参加者の増加に向けた具体的な施策を実施する必要がある。

4) 教育効果の測定と改善

【計画】

学生授業アンケートの回答率ならびに履修者への公開率の向上をはかるとともに、アンケート結果の効果的な活用事例を共有し、授業改善に向けた全学的な気運を高める。また教育方法研究開発委員会のもとワーキンググループを立ち上げたうえで、共通設問項目の見直し等、学生授業アンケートの更なる改善に向けた検討を進める。あわせて LMS 等から得られる学習ログを解析し、より効果的な教授法や教材を検討する。

【実績】

- 2015/6/26 第1回学生授業アンケート検討WG開催
- 2015/7/31 第2回学生授業アンケート検討WG開催
- 2015/7 2015年度春学期学生授業アンケートを実施
- 2015/9/25 第3回学生授業アンケート検討WG開催
- 2015/10/23 第4回学生授業アンケート検討WG開催
- 2015/10 教務担当教務主任会において集計結果を報告
- 2015/12 教務担当教務主任会において新たな共通設問等を提案
- 2016/1 2015年度秋学期学生授業アンケートを実施
- 2016/3 教務担当教務主任会において集計結果を報告し、2016年度アンケート実施方針を決定

【総括】

学生授業アンケートについては、設問を見直すだけでなく、ワシントン大学の事例などをもとに検討を進めた結果、授業の実施形態別に4パターン（講義、演習、実習、遠隔）の設問群から選択可能とし、より実質的な効果がはかれるようにした。一方、アンケートの実施率および回答率の向上は依然として課題であり、引き続き検討が必要である。

学習ログ解析はまずはMOOCコース（JMOOC、edX）から得られる学修データをもとに分析を行うこととしていたが、今年度は事前事後のアンケート分析にとどまった。次年度に向けてより細かい分析を行うべく準備を進めている。

5) 教育能力開発（FD/SD）に関する事業の企画および推進

【計画】

優れた教育を実践した教員を顕彰し、その教育方法や創意工夫の普及展開を促進する（ティーチングアワード、e-Teaching Award）。またワシントン大学（UW）と

のジョイントプログラムにおいて、FDプログラムを開発し展開する。
また TA の教育プログラム（プレ FD 含む）、職員向けのデータ解析等の研修（SD）などについても開発・検討を進める。

【実績】

- 2015/5/25 第3回 WASEDA e-Teaching Award 表彰式兼講演会開催
14 件のエントリーのうち、7 件を WASEDA e-Teaching Award、うち 1 件を大賞として表彰した。また全エントリー事例について Web 上で「Good Practice」として公開した。
- 2015/7/4～31 UW 教員 4 名が早稲田を訪問し、7/4～31 の期間滞在。政治経済学術院、社会科学総合学術院、国際学術院、理工学術院の執行部と懇談や授業見学を行った。
- 2015/7/27～29 UW 教員による半日 FD プログラム、模擬講義を実施。新任教員を中心に 29 名が参加。
- 2016/2/3 2015 年度春学期ティーチングアワード総長賞授与式開催
- 2016/1/29 海外派遣型 FD プログラム参加者を対象にベネッセ社の Classroom English に関するワークショップを試行的に実施した。
- 2016/2/28～3/11 UW への派遣型 FD プログラムを実施。14 名が参加。
- ・ティーチングアワードについて、2014 年度秋学期は、政治経済学部、基幹理工学部、先進理工学部、商学研究科ビジネス専攻の 4 か所、2015 年度春学期は日本語教育研究科、グローバルエデュケーションセンターが新たに加わり、計 6 か所においてティーチングアワードを実施した。受賞結果を広報するポスターを作成し、各箇所へ送付した。
 - ・教員表彰制度の受賞者を讃える銘板を作成し、7 号館 1 階に設置した。
 - ・第 4 回 WASEDA e-Teaching Award を開催。15 件のエントリーがあった。

【総括】

ティーチングアワードならびに e-Teaching Award については、Good Practice の共有という観点から Web 上での事例記事ならびに講義動画の公開、事例報告会の開催（e-Teaching Award のみ）、ポスターの掲示、銘板の設置などを行った。UW-Waseda ジョイントプログラムでは、UW より教員を招聘し、各学術院執行部との懇談や授業見学を通じて、まずは本学の現状把握を進めた。現状の課題を踏まえ、次年度以降に向けて FD プログラムの共同開発など具体的な検討を進める予定。TA の教育プログラムについては、他大学の事例調査など検討は進めたものの、具体的なプログラムの開発には至らなかった。制度改革の方向性も見据えつつ、具体的な施策を早急に進める必要がある。

6) 教育と学修内容の公開

【計画】

講義動画の収録・公開については学内スタジオの整備ならびに自動収録システムの本格稼働により、コンテンツの拡充をはかる。また授業見学等の取り組みを推進することにより、教育の可視化を進める。

JMOOC ならびに海外 MOOC において講座を開講し、本学の優れた教育内容を国内外に広くアピールするとともに、学習者データを解析し、本学の教育改善に寄与するフィードバックを行う。 (Waseda Vision 150 核心戦略3 関連)

【実績】

2015/4 西早稲田キャンパスの収録スタジオ本稼働

2015/5 JMOOC 第2弾講座「しあわせに生きるための心理学～アドラー心理学」(向後千春人間科学学術院教授)を開講。約3,500名が履修登録を行った。また対面講義(反転授業)を早稲田キャンパス3号館にて実施。約200名が参加し、盛況のうちに終了した。

2015/12 政治経済学術院、文学学術院、理工学術院、所沢総合事務センター(人科/スポ科)の担当者と収録設備の有効活用と授業公開につながる取り組み等について意見交換を実施した。

2016/1 edX 第一弾講座として「Tsunamis and Storm Surge: Introduction to Coastal Disasters」(柴山知也理工学術院教授)を開講。約2500名が履修登録を行った。なお本講座は米国の Jack Keng Cooke 財団による奨学金受給のための指定講座として選定された。

【総括】

正規授業の公開について、複数の学術院事務所と懇談を実施し、それぞれの箇所において公開のメリットを明確にしたうえで戦略的に進める必要性を再認識した。現時点では具体的な提案にいたっていないが、各学術院ごとに戦略的公開プランを提示し、連携して進めていく必要がある。

MOOC については、JMOOC ならびに edX にて各1コースを開講し、MOOC コース開発のノウハウを蓄積することが出来た。今後継続的にコースを提供していくために体制面や環境面を整えていく必要がある。学習者データの解析については、専門教員(大総研助教)を採用し、次年度に向けて体制を強化した。

7) センターの諸活動、成果の社会への発信・広報

【計画】

Web サイト、SNS 等による積極的な広報を推進するとともに、センター主催のシンポジウムを年数回開催し、本センターの活動や成果について学内外に向けて公開し、議論する場を設ける。またセンターにおける1年間の成果をまとめた「大学総合研究センター白書（仮称）」を刊行する。

【実績】

- ・以下のとおり、センターの取り組みに関連する成果報告を行った。
 - 2015/4/21 「MOOC～新しい高等教育の潮流～」
MIT／東京大学教授 宮川 繁・MIT 教授 Eric Klopfer
 - 2015/5/29 「第3回 WASEDA e-Teaching Award 表彰式兼講演会」
受賞者7名による受賞事例に関する講演、講評
 - 2015/7/7 「UW-Waseda ジョイントプログラム キックオフセミナー」
ワシントン大学教員、人間科学学術院准教授 森田 裕介
 - 2015/7/14 「教育現場における ICT 活用の可能性について」
人間科学学術院准教授 森田 裕介
 - 2015/9/14 「しあわせに生きるための心理学 ～アドラー心理学入門」報告
人間科学学術院教授 向後 千春
 - 2015/11/25 「クリッカーを活用したピアインストラクションの実践と評価」
学芸大学 教育学部教授 新田 英雄
 - 2016/3/22 第2回教育に関する懇談会
- ・大総研 Web サイトのリニューアルを実施。公式 Facebook による情報発信を適宜行った。

【総括】

大総研の学内外における知名度は徐々にあがっていると思うが、特に研究成果の発信が遅れている。Web サイトのリニューアルを機にタイムリーに成果を発信する仕組みについて検討を行っている。これまでの蓄積も含め可能な限り早期に Web 上での公開を目指したい。

以 上